



## 特集

## 第 49 回 経営業務実態調査結果 解説(後編)

— 従来型調査市場が伸び悩む一方、新セグメントはおおむね 2 ケタ成長を維持

## TOPICS

- 開催報告: AI・イノベーションセミナー 第 3 回
- 開催報告: 生成 AI 活用・情報交流会 第 2 回

Vol.82

2024/8/27 配信

出退勤中の厳しい暑さで汗だくになる中、「何もしないともっと暑くなる」という SNS ムーブメントが登場しました。このムーブメント、ちょっと皮肉っぽい名前ですが、実は気候変動に対する意識を高めるための真面目な取り組みです。市民一人ひとりが自分の行動を SNS でシェアし、みんなで環境問題に立ち向かおうというわけです。

「何もしないともっと暑くなる」とは、エアコンの温度を 1 度上げる、リサイクルを徹底する、そしてたまには車を使わずに歩くなど、地球に優しい小さな一歩をみんなでシェアして広めるムーブメントです。例えば、「今日はエアコンを 1 度上げてみた! #暑さ対策」なんて投稿をすると、他の人も「じゃあ私もやってみようかな」と思うかもしれません。

このムーブメントのユーモアに富んだアプローチは、深刻な問題に楽しく立ち向かうためのアイデアです。だからこそ、多くの人々がこのキャンペーンに参加し、地球を少しでも涼しくするためのアクションを取ることが期待されています。未来のために、今、私たちができることを考えてみませんか？

＜JMRA ウェブ・メルマガ委員会＞

[メルマガ登録について詳しくはこちら](#)

## 特集

第49回 経營業務実態調査結果 解説(後編)

従来型調査市場が伸び悩む一方、  
新セグメントはおおむね2ケタ成長を維持

第49回 経營業務実態調査結果 解説(後編)

従来型調査市場が伸び悩む一方、

新セグメントはおおむね2ケタ成長を維持

JMRA の産業統計委員会では、業界統計の一環として、昨年引き続き ESOMAR が提唱した「インサイト産業 8 セグメント」への拡大推計を実施しました。

同定義に準拠した日本の市場規模は 4,499 億円(従来型調査市場比 1.74 倍、前年比 104.2%)と推計されています。従来型市場調査(2,593 億円)の成長率が 100.1%にとどまったことから、シェアは前年の 60.0%→ 57.6%とさらに後退しました。

従来型市場の伸びが停滞する一方、新セグメントはおおむね2ケタ成長を続けています。また、国際的には活発な M&A や、大手企業が対応業務の性格を変えたことなどにより、新セグメント内での移動が発生し、ますます境界線がわかりにくくなる現象が生じています(日本国内でも前年からのセグメント間移動あり)。

なお、依然として外資系企業(日本法人)の情報収集は難しく、残念ながらテクノロジー主導分野の推計は前進していません。関係する企業・組織・団体からの情報提供ならびにご協力を期待しています。

[詳しくはこちら](#)

## TOPICS

JMRA アニュアル・カンファレンス 2024  
Beyond “Marketing Research”～新産業の協働と創造へ～  
2024年11月28日(木) 開催

### JMRA アニュアル・カンファレンス 2024 「市場調査業界従事者アンケート」に ご協力をありがとうございました

2024年11月28日(木)、ベルサール渋谷ファーストにて「JMRA アニュアル・カンファレンス 2024」を開催します。そのメインコンテンツの一つである「JMRA 三役による座談会」に関連して、「市場調査業界従事者アンケート」を実施いたしました。

アンケートへのご回答及び関係者への周知にご協力いただき、誠にありがとうございました。多くの皆様からご協力いただき、718名の回答を得ることができました。今回のアンケート結果を基に、登壇する役員に業界の現状および今後の展望について議論いただく予定です。また、今後のJMRAの活動にも活かしてまいります。

ぜひ、カンファレンス当日は会場へお越しくください。5年ぶりのリアル開催となる本カンファレンスは、より多くの方にご参加いただけるように入場無料での開催となりました(要事前登録)。現在、カンファレンスの特設サイトの準備を進めています。そちらの公開も楽しみにお待ちください。

## TOPICS

AI・イノベーションセミナー第3回

開催報告

調査領域における生成AI活用事例ご紹介

8月2日(金) 12:00-12:45

開催報告: AI・イノベーションセミナー 第3回  
調査領域における生成 AI 活用事例ご紹介

2024年8月2日に開催された「AI・イノベーションセミナー第3回」では、(株)ビデオリサーチの藤森省吾氏と(株)オルツの山口正人氏より、「生成 AI 技術はアスキング調査の代替になるのか」と題して、「デジタルクローン」技術と生成 AI を活用した「Asclone」サービスが紹介されました。デジタルクローン技術についてはテレビ番組や YouTube などで見聞きされた方も多いと思いますが、近年の精度向上には目を見張るばかりです。オルツ社のデモでは、十分な実用段階に入っていることが実感されました。そうした技術を応用し、ビデオリサーチ社が長年にわたって蓄積してきたマーケティングデータベースを活用して開発された Asclone は、対話形式で仮想対象者にインタビューすることができるサービスです。AI が生成した「相談相手の進化版」として、リサーチャーをサポートする役割を期待しているとの説明がありました。

[詳しくはこちら](#)

## TOPICS



### 開催報告：生成 AI 活用・情報交流会 第 2 回

2024年8月7日、インターネット調査品質委員会の主催で「第2回 生成 AI 活用・情報交流会」が開催されました。

このイベントは、業界の発展のために生成 AI に関する情報を多くの人々と共有する場として発足し、生成 AI の活用と業界の発展に貢献する情報提供を目的としています。

今回の活動には、7社からの協賛をいただきました。スポンサー企業の皆様に心より感謝申し上げます。JMRAでは、リサーチャーの皆様にご利用いただける ChatGPT などの API 環境を準備中です。

今回の情報交流会では、クロス・マーケティングの水原様と日経リサーチの太田様がライトニングスピーチを行いました。参加者からの質問に答えながら、和やかな雰囲気の中で進行し、参加者からは開発に関する悩みへの共感のコメントも寄せられました。

次回の参加者のお申し込み受付中です。

・生成 AI 情報交流会：9月5日(木)18:30～ Zoomにて

[詳しくはこちら](#)

## 開催報告:「データサイエンス研究会報告」 &「データ解析担当者交流会」

リサーチ・イノベーション委員会では、2023 年度に取り組んだ「データサイエンス(DS)研究会」の成果報告会兼「データ解析担当者交流会」を、7月18日に対面式で実施しました。

今回の報告テーマは「回帰分析の困難に対処するスパース回帰」、「大規模データ向けの新クラスター分析」で、一見難解そうな内容ながらも、研究会メンバーを含む16名の参加者による熱く、内容の濃い議論が交わされました。

従来の線形回帰では分析が困難な状況への対処策と留意点、元データの相関性を加味したクラスター分析の精度向上策につき、わかりやすく解説していただきました。報告会終了後は会場を交流会形式に切替え、日ごろの悩みごと相談をまじえた懇親の場となりました。

2024年度もプロジェクト型の研究会を継続開催する予定ですが、まだテーマが固まっていません。データ解析に関わる悩ましい課題、解決を迫られている課題などありましたら、JMRA事務局までご一報ください。

[詳しくはこちら](#)

## 連載

# JMRA マーケティングデータ・ストレージ ピックアップセレクション

最近 JMRA マーケティングデータ・ストレージに掲載された会員社の自主調査から、ウェブ・メルマガ委員会が精選した自主調査をご紹介します。

## 今月の注目調査

### ●夏休みに関する調査

(2024.07.17 (株)インテージ)

今年の夏休みの予算は平均 58,561 円で昨年よりもやや減少しています。特に海外旅行の予算は約7万円の減少です。やはり物価高や円安が影響しているようです。

詳しくはこちら  
(JMRAマーケティングデータ・ストレージ)

## 今月の注目調査

### ●「短期退職に関する調査」

(2024.07.22 (株)ネオマーケティング)

新卒・中途入社で1年以内の短期退職経験者及び1年以内に退職した従業員に關与した経験のある、企業の人事・教育担当者に対し、アンケート調査を行っています。1年以内で退職した会社の在籍期間は、新卒では「1年以内」、中途では「3か月以内」が最多でした。

詳しくはこちら  
(JMRAマーケティングデータ・ストレージ)

## 連載

What's happened?

## おすすめ記事をピックアップしてご紹介

広告・マーケティングの最新動向がわかるメーカー向け専門メディア「MarkeZine」から、おすすめ記事をピックアップしてご紹介いたします。

## 今月の注目記事

### ●『その決定に根拠はありますか?』

データに基づいたマーケティングの第一歩を踏み出すなら【お薦めの書籍】

詳しくはこちら  
(外部サイト:MarkeZine)

## 今月の注目記事

### ●【2024 年前半】マーケティング業界のトレンドをチェック!

MarkeZine 人気記事ランキング 20

詳しくはこちら  
(外部サイト:MarkeZine)

## 教育講座・セミナー案内

AI・イノベーションセミナー 第4回

### パッケージデザイン評価AIのご紹介

2024.08.30 Fri. 12:00-12:45

#### ●AI・イノベーションセミナー 第4回 パッケージデザインを評価する AI のご紹介

生成 AI は次々に新しいデザインを作り出しますが、結局無数に作り出したデザインは正しく絞り込んでいく必要があります。

今回はパッケージデザインを評価するためにプラグが開発したパッケージデザイン評価 AI についてご紹介します。

どのように評価する AI なのか。またリアルな調査とどう組み合わせることで、より質の高いデザインができるのかなど、事例を踏まえてご紹介します。

・日程:2024年8月30日(金) 12:00~12:45

・会場:Zoom ミーティング

詳しくはこちら  
(外部サイト:peatix)



### マーケティング・リサーチ ベーシックコース (秋季)

2024年9月2日(月) ~ 10月31日(木)

#### ●マーケティング・リサーチ ベーシックコース

本講座は、初めてマーケティング・リサーチ業務に接する人から3年程度の業務経験を重ねた方の、リサーチの全体像の知識取得と理解を目標として開講するものです。

講座の内容は、マーケティング・リサーチの基本である、定量調査と定性調査の基礎を理解し、マーケティング・リサーチの全体を俯瞰して体系的に学びます。そのうえで、調査の各工程は有機的に結合し、ある工程の成果は次の工程に大きく影響することを踏まえて、各工程に従事する人が、調査の全工程を含む知識を有することができるものとなっています。

今期より、新製品開発等で多用される手法で、固有の実施方法や分析方法が数多く含まれる「テスト・実験調査」がラインナップに加わりました。

マーケティング・リサーチの実務を担当して日の浅い方や調査の基本を知りたい方、また、調査の営業・企画担当者に受講をお勧めします。

・日程(視聴期間):2024年9月2日(月)10:00開講~10月31日(木)17:00

詳しくはこちら



## 定性調査 インタビューフロー作成講座

2024年9月4日(水)・11日(水)

### ●定性調査 インタビューフロー作成講座

～理論編(半日)+実践課題(宿題)+個別指導(1時間)のコンパクトな集中講座～

定性調査の経験がある方々からの「インタビューをしても調査課題に繋がるような結果がうまく引き出せなかったのでも何とかしたい」、「インタビューフローを自己流で作ってきたが、これで良いのかよくわからない」、「このインタビューフローが的確かどうかを判断できるようになりたい」そんなお声にお応えした座学と実践を交えた新設講座です。

まず、座学を通して、「インタビューフローの役割」、「モデレーターとしての実戦経験の中から考えるインタビューフローの作成手順」、「インタビュー項目の流れと時間配分」といったことを学びます。そして、実践では、各自が宿題で作成したインタビューフローに対し、講師がマンツーマンで直接フィードバックをします。

本講座では現場ですぐに活かせる学びを得て、調査課題を明らかにするインタビューフローを作れるようになることを目指します。

(インタビューのやり方・スキルを学ぶ講座ではありません。インタビューのスキルに興味がある場合は、『インタビュースキル養成講座』と併せてご検討ください)

・日程:[全2回]2024年9月4日(水)13:00～17:00・11日(水)13:00～17:30のうち1時間の個別指導

・会場: Zoom ミーティング

詳しくはこちら

多様なマーケティング・リサーチの  
新潮流に触れる 著者が語るシリーズ2024【ウェビナー】

第2回

9.19

(木)

### ●著者が語るシリーズ 2024 第2回 木村元氏

「ブランド・パワーを定量化して、正しくマーケティング戦略を立案する方法」

ブランドが売り上げや競争力の源泉であることは理解していても、数値化してマーケティングに落とし込むのは難しいものです。より正しくブランド・パワーを把握し、ブランディングを可視化することが重要です。

ブランド・パワーを用いて売り上げや利益を生み出す真のドライバーを見つけ、自社の戦略に合わせて最適な指標を構築する、そのステップについて、世界のブランディングを経験されたユニリーバの元マーケターから学びます。

- ・日程:2024年9月19日(木) 12:00~13:30
- ・会場:Zoom ウェビナー

[詳しくはこちら](#)



●JMRA プライバシーマーク審査基準について(限定説明会)(大阪会場)

今回の説明会では、JIPDEC の指針変更を受け、2024年10月1日以降にプライバシーマークの新規並びに更新申請を受け付ける審査に適用する審査基準について、従来からの変更点などを解説します。

- ・日程:2024年9月25日(水) 15:00(14:30開場)~16:30
- ・会場:【ハイブリッド】インテージ西日本支社2階会議室・Zoom ウェビナー

[詳しくはこちら](#)



●AI・イノベーションセミナー 第5回 AI 技術を活用したマーケティングリサーチの効率化と可能性

楽天インサイトでは、これまで人間が担っていた分析作業を AI に代替させることで作業の効率化のみでなく、新たな価値創造に取り組んでおります。

今回は既にサービスとして提供開始している2つの事例をご紹介します。

これらの事例から、生成系 AI を活用することでマーケティングリサーチの領域においてどのような新たな価値が生まれているかについてご紹介できればと思います。

- ・日程:2024年9月27日(金) 12:00~12:45
- ・会場:Zoom ミーティング

詳しくはこちら  
(外部サイト:peatix)

## 多様なマーケティング・リサーチの 新潮流に触れる 著者が語るシリーズ2024【ウェビナー】

第3回

10.3  
(木)

### ●著者が語るシリーズ 2024 第3回 松本健太郎氏

「数式なしのデータ分析 課題設定、仮説構築、仮説検証のロジック」

ビジネスの成果につながるデータ分析の思考法とは何か。本書は老舗菓子メーカーを舞台に、問題把握と課題設定、仮説構築と仮説検証、意思決定に至るプロセスを、マンガのストーリーに仕立て、学ぶユニークなケースメソッドです。論理的思考法をベースに、数式や統計学だけではわからないデータ分析の面白さとノウハウについて語っていただきます。

・日程:2024年10月3日(木) 12:00~13:30

・会場:Zoom ウェビナー

詳しくはこちら



## インタビュースキル養成講座

全3回 2024年10月9日(水)・16日(水)・23日(水) or 30日(水)

### ●定性調査インタビュースキル養成講座

AIでのインタビューの研究も進んでいますが、まだ、人の内面の深いところに保存されている体験記憶、自分も他人も気付かないインサイトに到達するためには、人間の力が必要です。

本講座は、より精度の高い定性情報を作り出す定性インタビューのスキルを座学と実践で学んでいただくためのものです。

本年度は、初回・2回目をオンラインで、3回目を会場で実施します。オンライン講座のみ、会場での講座のみの参加も可能です(若干名)。

定性調査の仕組みを理解していただく座学と実践を通して、「定性調査のインタビューの基本(仕組みの再認識)」、「マーケティングのネクストステップに役立つインタビューのスキル」、「対象者との信頼関係づくり」、「生活者を理解するために丁寧に聞く→聴く」、「柔軟な投げかけと的確なプローブ」といったことを学びます。

・日程:[全3回]

1回目:2024年10月9日(水)13:00~16:30(Zoom ミーティングを使用)

2回目:2024年10月16日(水)13:00~16:30(Zoom ミーティングを使用)

3 回目:2024 年 10 月 23 日(水)又は 30 日(水)各日:10:00~17:00(JMRA 研修室)

・会場:Zoom ミーティング、JMRA 研修室

[詳しくはこちら](#)

お知らせ



●ESOMAR APAC 2024 (Bangkok) のご案内

JMRA 会員には特別割引価格が適用されます！

今年の ESOMAR APAC 2024 は、「IGNITE!(火を付けろ!)」をテーマとして、タイのバンコクを舞台に 11 月 6 日~8 日の日程で開催されます。アジア太平洋地域のベストプラクティスに学び、ネットワークを拡大する場としてご活用いただければと思います。プログラムの詳細は随時ご案内してまいります。

また、ESOMAR と JMRA とのパートナーシップ契約に基づき、JMRA 会員には 15%の特別割引価格が適用されます。ぜひ参加をご検討ください(登録お申込みの前に JMRA 事務局までご連絡ください。プロモーションコードをご提供します)。

[詳しくはこちら](#)  
(外部サイト:ESOMAR)

9 月号は 9 月 24 日(火)発行予定です



JMRA メルマガ 82 号をお届けしました。

前評判はあまり芳しくなかったパリオリンピックでしたが、予想に反して非常に盛り上がり、無事に終了しました。日本選手の連日の活躍に、拳を握り締めたり、ガッツポーズを取ったりして、寝不足になった方も多かったのではないのでしょうか。しかし、残念ながら「疑惑の判定」がいくつか見受け

られ、不満を感じた方も少なくなかったかもしれません。特に、アカツキジャパン(バスケットボール)のフランス戦では、試合の最終盤に行われた 3P シュートに対するファウル判定が問題となりました。接触が見られず、シューターもバランスを崩していなかったにもかかわらず、結果としてカウントワンスローで 4 点が追加され、試合は延長戦に持ち込まれ、最終的に敗退してしまいました。

さらに、この試合では、エースの八村選手が相手選手の腕を掴んだとされ、ビデオ判定の結果、2 度目のアンスポーツマンライクファウルを取られて退場となりました。(最初のファウルも、単なるファウルに見えましたが…)一方で、最終戦のブラジル戦では、日本のホーキンソン選手がシュートタイミングで腕を掴まれたにもかかわらず、ビデオ確認の結果、単なるファウルとして処理されました。この 2 つの判定に大きな違いがあったとは思えず、審判による判定の一貫性の欠如が不公平感を生む結果となっていることが問題です。このような判定は、選手たちの努力を無にするだけでなく、不当に有利な判定を受けた選手たちへの批判も生み出してしまい、非常に心苦しく感じます。

IT 技術の進化が目覚ましい現代において、スポーツの判定が難しい場面では、全方位からのビデオ映像や AI(過去の事例の蓄積)を活用して判定することが求められる時代になっているのではないのでしょうか。ラグビーでは既に、TMO(テレビジョンマッチオフィシャル)を使用し、危険なプレーやトライの判定が微妙な場合に、様々な角度からの録画ビデオを駆使して正確な判定を行っています。これにより、不利益を被る選手もおらず、公明正大な判定が実現されています。

こうした最新技術は試合だけではなく、選手のプレーの分析や練習メニューの開発にも活かされ始めており、アスリートのトレーニング環境も大きく変化しています。

スポーツにおける AI の活用は今後ますます進んでいくと考えられますし、その進化に注目が集まることになるでしょう。

我々の業界も、同様の環境におかれているといえないのでしょうか。

- 
- ◆このメールはメルマガをご登録された方に配信しています。
  - ◆配信停止を希望される方は こちらよりお願いいたします。
  - ◆このメールは送信用アドレスから配信しているため、ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
  - ◆プライバシーポリシーは こちらをご覧ください。
  - ◆配信元: 一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会  
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-9-9 石川LKビル 2 階  
<https://www.jmra-net.or.jp/>  
[office@jmra-net.or.jp](mailto:office@jmra-net.or.jp)

あなたの中に未来がある。